

第6回（平成21年度）IODP部会・執行部会 議事録（案）

日時：2009年12月21日（月） 14：30～17：30

場所：海洋研究開発機構東京事務所 セミナー室A・B

出席者（敬称略）

執行部：山崎俊嗣（産業技術総合研究所）芦 寿一郎（東京大学）安間 了（筑波大学）
池原 実（高知大学海洋コア総合研究センター）沖野郷子（東京大学）
坂本竜彦（海洋研究開発機構）末次大輔（海洋研究開発機構）林 広樹（島根大学）
松本 剛（琉球大学）森田澄人（産業技術総合研究所）山本啓之（海洋研究開発機構）

文部科学省海洋地球課：柴田晋吾 酒井祐介

海洋研究開発機構：阿波根直一

事務局：藤原彰子 加賀谷一茶 梅津慶太

欠席者（敬称略）

執行部：高澤栄一（新潟大学）平野直人（東北大学）山本正伸（北海道大学）

議事次第

- J-DESC の運営について
 - J-DESC 会計業務委託〔山崎部会長，事務局〕……………〔資料 1〕
 - 新事務局の体制と支援内容〔CDEX〕
 - IODP 乗船研究費支援〔CDEX〕
- 今後の IODP 計画について
 - 事業仕分け関連対応〔山崎部会長，MEXT，CDEX〕……………〔資料 2-1，2-2〕
 - IWG+での検討状況〔MEXT〕
- IODP 科学計画更新
 - Science Plan writing committee メンバーについて〔山崎部会長〕……………〔資料 3〕
- SAS パネル・国内委員会関連〔山崎部会長，事務局〕
 - SSEP 委員公募結果……………〔資料 4〕
- 専門部会活動報告
 - 技術開発推進専門部会〔事務局〕
- IODP 掘削航海関連
 - 乗船研究者募集状況……………〔資料 5〕
 - Exp.323 サンプリングパーティー実施報告
- 学術交流関連
 - J-DESC コアスクール：ロギング基礎コース 開催企画案〔事務局〕……………〔資料 6〕
 - 「ちきゅう」乗船スクール 2010 準備状況〔CDEX〕
 - 日独若手交流プログラムについて
- その他
 - 高知大学海洋コア総合研究センター全国共同利用課題選定委員会の推薦について〔池原委員，事務局〕……………〔資料 7-1〕
 - AGU IODP Town Hall Meeting (091215) 報告〔事務局〕
 - KAP WS (091128-29) 報告〔安間委員〕
 - 日韓沖縄プロポーザル会合 (091210) 報告……………〔資料 7-2〕
 - 次回執行部会開催日程……………〔参考資料 1〕

議事録（案）

1. J-DESC の運営について

・J-DESC 会計業務委託

資料 1 に基づき、山崎部会長より説明がなされた。

- ・ 山崎部会長と事務局で学会支援機構を訪問し、説明を聞いた。
- ・ 出版系の事務支援業者もあったものの、金額や名称なども考慮し、学会支援機構を選んだ。
- ・ J-DESC の口座は、「J-DESC 会長〇〇」という名義の口座を作る。口座の表示自体は J-DESC まででき、学会支援機構で機関からの入金の問題が発生した事例はないとのこと。
- ・ 会費の入金に関して、郵便振替以外でも対応できる。
- ・ AESTO 管理下にある J-DESC のお金を新たな口座に移す際には、その所有が J-DESC のものであることがはっきりわかれば課税されることはないとのこと。
- ・ 任意団体の場合、収益となるような活動や人を雇ったりしていない限り、實際上税務署は捕捉できないだろうとのこと。

学会支援機構に会計業務を委託する件について、特に異論はなく承認された。今後は陸上掘削部会での承認を経て総会での承認手続きを行うこととなった。

・新事務局の体制と支援内容

標記の件について阿波根氏より説明がなされた。

- ・ 体制については、前回説明したとおり、CDEX の中に事務局を設ける。PMO 機能については引き続き CDEX 内の事務局で行う予定。具体的な部分についてはこれから決まる。
- ・ 来年度の支援は国際ワークショップ等への支援を強化することを検討している。
- ・ 乗船研究費支援については、今年度は難しい。来年度から実施に向けて検討している。
- ・ 研究費支援のやり方としては、Expedition 単位で代表者が JAMSTEC と委託研究等の契約を結ぶことを考えている。
- ・ 支援は今年実施された航海から対象とする予定。

2. 今後の IODP 計画について

・事業仕分け関連対応

資料 2-1、2-2 に基づき、山崎部会長より説明がなされた。

- ・ 11 月 30 日に政務官と直接面会し、J-DESC の要望書（資料 2-1）を提出した。
- ・ 和やかな雰囲気での面会することができた印象はある。

・IWG+での検討状況

柴田企画官より標記の件について報告がなされた。

- ・ IWG+はオープンなので、機会があれば出席してほしい。
- ・ 1 月に韓国で、6 月に東京でそれぞれ IWG+会合がある。
- ・ 今後のサイエンスプランなどの策定スケジュールを考えれば、Funding Agency 間で 1 月中には 2013

年以降の基本的な考え方を合意している必要があるとの認識がある。

- ・ 欧米間では、各 IO が各プラットフォームをマネジメントし、**Central Management Office** を **Central Coordination Office** とし、**SAS** もより簡素化していくことで、サイエンスの成果を最も効率よく上げるような仕組みにするべきであるというコンセンサスがある。
- ・ 「ちきゅう」のライザー掘削に関しては、今の **SAS** の評価システムとは合わない。したがって別のプロセスが必要であるとの認識がある。例えば IO がプロポーザルの策定の時点で関わり、ワークショップ形式でプロポーザルを育成するようなプロセス。
- ・ 日本は分担金による均等貢献を主張している一方で、欧米は分担金と知的貢献を合わせて貢献とすべきであるとの主張をしている。アメリカとしては、ヨーロッパは知的貢献が極めて高いため、分担金を日米と同等にする必要はないのではないかという考え。
- ・ 3年ごとに **IODP** のプログラムのレビューを行う仕組みがあり、来年7月までにレビューペーパーができる予定で進められる。レビューのメンバーには日本から2名が推薦されている。このほか、もう1名推薦してほしい（できれば比較的若く、英語力に長けた女性が望ましい）。

3. **IODP** 科学計画更新

- ・ **Science Plan Writing Committee** メンバーについて

資料3に基づき、山崎部会長より説明がなされた。

- ・ コミッティーメンバーは、ナショナルバランスは依然として日本が少ないものの、ヨーロッパに比べて少ないというような状況ではない。分野のバランスは固体系がやや弱い感があるが、特に日本に不利なものではないように思われる。
- ・ コミッティーメンバーの **AGU** 参加者で一度集まり、会合を開いたようである。
- ・ この委員会は2010年2月に正式な第1回会議を開催し、現在のところ6月までにはドラフト版サイエンスプランを作成するというスケジュールになっている。
- ・ コミッティーメンバーをサポートするには、やはり **White paper** を作成した **INVEST** 国内運営委員会委員の協力が必要である。

日本人のメンバー（3名）をどのようにサポートできるかを検討するため、ひとまず各人に執行部からコンタクトをとり、現在の状況（サイエンスプラン作成の工程など）を聞くことが合意された。

4. **SAS** パネル・国内委員会関連

- ・ **SSEP** 委員公募結果

資料4に基づき、山崎部会長より説明がなされた。

- ・ 岩石2名、地球化学1名、計3名の募集に2名自薦を含む5名の応募があった。

以下の点について合意された。

- ・ 地球化学分野では、執行部からの応募者を推薦し、稲垣氏が退任する際（次回）にもう1名の応募者に再応募してもらうようお願いする。
- ・ **SSEP** では比較的若い研究者を送り込むべきであるとのことから、岩石学分野では、3名のうちより若い応募者を推薦する。もう1名の応募者については経験を生かし、**Alternate** として登録させて

もらうことを願います。

5. 専門部会活動報告

・技術開発推進専門部会

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・ 9月のINVESTに関して技術開発関係の報告を行った。
- ・ 技術部会としても、技術者と研究者の意見を交換できるようなワークショップを年に1回程度開催できればよいという共通認識を再確認した。
- ・ 1月に仙台で開催されるEDP会議の事前打ち合わせを行った。次期Vice-chairはESSAC推薦のMaria Ask氏に決まった。
- ・ 今度のEDP会議時には、ChairとVice-chairのローテーションに関する検討を行う予定。
- ・ 技術部会やEDPの「ちきゅう」に関する意見がCDEXの技術開発により反映されるよう、技術開発推進専門部会委員とCDEX外部評価委員を兼任する方から技術部会の意見を伝えるようなシステムを構築することが合意された。

6. IODP 掘削航海関連

・乗船研究者募集状況

資料5に基づき、事務局および山崎部会長より説明がなされた。

- ・ JR号3航海（Juan de Fuca Hydrogeology、South Pacific Gyre Microbiology、Louisville Seamount Trail）の募集を行っているが、現時点でいずれの航海も応募者はなし。
- ・ Co-chiefはJuan de Fuca 2が京都大の辻健氏、Louisville Seamountが山崎部会長に決定した。
- ・ Louisville Seamountでは被覆する石灰岩等も採取するため、その分野の専門家の乗船も必要。
- ・ Juan de Fuca 2にTV取材を乗船させられない場合、どのように枠を決める必要がある。山崎部会長より辻氏に連絡し、状況の把握を行う。
- ・ South Pacific Gyreは微生物だけでなく、堆積物、基盤岩関係でも乗船者が必要である。安間部会長補佐より本山氏に連絡し、乗船の打診を行う。
- ・ NanTroSEIZE stage3（7,000mライザー掘削のサイトSiteC0002において3,000mのライザー掘削を行う）の募集を明日から開始する。予算などの都合上、変更もありうるが6月1日～10月31日の予定。乗船枠は8名。サイエンスパーティーは前半と後半の2つに分けられる。

・Exp. 323 サンプルングパーティー実施報告

坂本委員より標記の件について報告がなされた。

- ・ 11月30日～12月9日の10日間、高知コアセンターでExp. 323のサンプルングパーティーが行われた。
- ・ 約60,000個のサンプルリクエストに対し、約38,000個のサンプルングを行った。
- ・ 約20,000個のサンプルがとれておらず、その多くが日本人からのリクエストである。
- ・ 取り残したサンプルは高知コアセンターのスタッフでサンプルングが行われるが、今後、日本人のみで追加のサンプルングパーティーを行うことも考えており、その場合、旅費の支援が必要になる

だろう。

- ・ オフィシャルな形でサンプリングパーティーとして認められれば支援をすることが可能。

7. 学術交流関連

- ・ J-DESC コアスクール：ロギング基礎コース 開催企画案

資料 6 に基づき、事務局より説明がなされた。

- ・ 3 月 21 日～23 日に JAMSTEC 横浜研究所または「ちきゅう」船上にて開催予定。
- ・ 実施内容は昨年度同様、講義や基礎的なデータ解析の実習を予定している。

ロギングコース企画案と予算案は特に異論はなく承認された。

- ・ 「ちきゅう」乗船スクール 2010 準備状況

CDEX 阿波根氏より標記の件について説明がなされた。

- ・ 1 月 6 日～9 日に若手研究者向け、9 日～11 日に教育関係者向けに清水港で開催。
- ・ 若手研究者向けは 6 名、教育関係者向けは 8 名が参加予定。
- ・ 講師は JAMSTEC 坂口氏、産総研七山氏、深田地質川村氏が若手研究者向け、引き続き七山氏、川村氏および、島根大の林氏、宇都宮大の相田氏が教育関係者向け。
- ・ 2 月にも開催予定（9 日～13 日：若手研究者向け、13、14 日：教育関係者向け）のため、講師選出などで協力してほしい。

- ・ 日独若手交流プログラムについて

標記の件について山崎部会長、山本委員より説明がなされた。

- ・ 早めにプログラムを走らせなければ、今年度の交流が出来なくなってしまう可能性がある。

8. その他

- ・ 高知大学海洋コア総合研究センター全国共同利用課題選定委員会の推薦について

資料 7-1 に基づき、池原委員より説明がなされた。

- ・ 来年度 4 月から全国共同利用課題選定委員会を組織することとなった。
- ・ 学内の委員に加え外部から 4 名に委員をお願いすることになり、J-DESC から候補者の推薦をしてほしい。

資料 7-1 にある委員候補を推薦することが合意された。

- ・ AGU IODP Town Hall Meeting (091215) 報告

標記の件について、山崎部会長および事務局より標記の件について報告がなされた。

- ・ 200 名ほどの参加者があった。会場に人が入りきらなかったほど人がいた。
- ・ 文科省からはこれからも「ちきゅう」を IODP のために使っていくつもりであるという強いメッセージが送られた。

- ・ KAP WS (091128-29) 報告

標記の件について、安間部会長補佐より報告がなされた。

- ・ 5月のSSEPの結果を受け、事前調査の結果を持ち寄りプロポーザルの修正を行った。
- ・ 今回はモニタリングのプロポーザルを来年4月までに提出する予定。
- ・ AGUに合わせてタウンホールミーティングを開催したが、国際的には人の集まりはあまり良くなかった。

・ IBM WS

標記の件について山崎部会長より報告がなされた。

- ・ プロポーネントのチームによるSPC、SSEP対応のためAddendumを検討するワークショップであった。
- ・ IBMは全4プロポーザルのうち、3つがSPCにあるものの、どれもOTFには上げられていない。

・ 日韓沖縄プロポーザル会合(091210)報告

標記の件について松本委員より報告がなされた。

- ・ 古海洋関連のプロポーザルに関する会合であった。
- ・ まず、Okinawa Trough Deep Hot BiosphereのAPLとして提出することが合意されている。

執行部からのコメント

- ・ APLとして提出するのであれば、早く提出しSPCで承認される必要がある。特に、Okinawa TroughはNanTroSEIZE stage 3のContingency planとされているため、黒潮の流れによっては来年度実施されることもあり得る。

・ 次回執行部会開催日程

1月下旬以降に開催。メールにて調整を行う。